

方式・日程	問題番号	出題分野	出題内容
A方式 11月2日 問題▶P.18～	第1問	小問集合	確率、集合と命題、2次関数のグラフの移動
	第2問	数と式	根号を含む式の計算
	第3問	図形の性質・計量	余弦定理
A方式 11月3日 問題▶P.19～	第1問	小問集合	根号を含む式の計算、余弦定理、集合と命題
	第2問	2次関数	頂点の座標、共有点の座標、接点の座標
	第3問	整数の性質	約数の個数、素因数分解の利用

**傾向** 出題は数学Ⅰ・Aの範囲。基礎レベルの問題が中心。

## ① 出題形式

全問マークシート方式である。

推薦A方式は11月2日、11月3日の両日とも、大問3題からの出題である。

マーク数は、A（11月2日）が35、A（11月3日）が30であり、そのうちA（11月3日）では、択一式が2題であった。

大問別の出題分野は、どちらの日程も第1問が小問集合で、A（11月2日）は、確率、集合と命題、2次関数のグラフ、A（11月3日）は、数と式、図形の性質、集合と命題などであり、第2問はA（11月2日）は数と式、A（11月3日）は2次関数が出題され、第3問はA（11月2日）は図形の性質・

計量、A（11月3日）では整数の性質の中からそれぞれ出題された。

## ② 出題内容

出題分野は、両日とも数学Ⅰ・Aからで、数学Ⅰから、根号を含む式の計算、2次関数、集合と命題、図形の計量・性質などが共通して出題されている。

また、A（11月3日）は、数学Aから整数の性質が出題されている。

## ③ 難易度

ほぼ、基本的な問題からの出題になっている。まずは、教科書の内容を確実におさえよう。

**対策** 教科書で扱われている定理や公式を確実に使いこなせるようにしよう！

## ① 教科書の例題は確実にできるようにしよう

<数学Ⅰ分野>

数と式からは、根号を含む式の計算、集合と命題、2次関数では、グラフを移動したり、頂点・共有点・接点などの座標を求める問題、図形と計量からは、余弦定理を活用する問題が出題された。

根号を含む計算では、分母の有理化をまず正確に行い、そのうえで基本対称式に当てはめられるように日頃から計算練習をしておこう。

集合と命題では、どのようなときに必要条件、十分条件、必要十分条件というか、確実に理解をしておこう。そのためには、命題の真偽を判断する力が必要となるが、単に真偽を確認するだけでなく、偽の場合は反例を見つけることも重要である。

2次関数では、平方完成からグラフをかけるようにしたり、判別式を利用して接点の座標や接線の式を求められるようにするために、教科書の例題を何度も反復しよう。

図形と計量では、余弦定理を使いこなせるようにしよう。そのために、三角比の性質を教科書で見直しておこう。

<数学A分野>

場合の数と確率からは確率が、整数の性質からは約数の個数を求める問題などが出題された。

場合の数と確率では、確率を正しく求めるために、すべての場合をもれなく数えられるようにしておこう。

整数の性質では、約数を求めるために素因数分解を正確にできるように練習をしよう。

## ② 解ける問題から進めよう！

基礎レベルの問題が中心だが、例えばA（11月3日）の第3問のように、計算にやや時間を要する問題も含まれている。このような問題に時間をかけ過ぎて、他の問題が解けないまま試験時間が終了してしまうことも考えられる。そこで、まずは、確実に解ける問題から優先的に進めることも試験では必要であることを日頃から意識しよう。